

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備考
2477	パルボウイルスB19 IgG《EIA》	血液 各1			EIA	陰性(-) index 0.80 未満	—	3 9	基準判定保留0.80~0.99 陽性1.00 以上
2478		血清 各0.3	01	冷					
2450	《CF》	血液 1			CF	血清 4 倍 髄液 原液		3 5	
		血清 0.3	01	冷					
		または							
		髄液 0.4	02	冷					
2451	1型《NT》				NT	血清 8 倍 髄液 原液	79 免疫 3	9 14	
2452	2型《NT》								
2453	3型《NT》								
2454	4型《NT》								
2455	5型《NT》	血液 各1							
		血清 各0.3	01	冷					
2456	6型《NT》	または							
		髄液 各0.4	02	冷					
2457	7型《NT》								
2458	8型《NT》								
2459	11型《NT》								
2462	37型《NT》					血清 4 倍 髄液 原液		9 15	

ウイルス抗体

ウイルス

「ウイルス抗体(HI, CF, NT, FAT)検査の留意点」(78頁-1)をご参照ください。

- ・補体結合試験(CF)：溶血血清では検査不能の場合もあります。
- ・中和試験(NT)：所要日数は一応の目安です(多少遅れる場合もあります)のでご了承ください。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
- ・EIA法・その他法：最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。

[ご参考]「ウイルス抗体検査について」(77頁-1)を掲載しています。

- 1：紅斑が出現している15歳以上の成人について感染が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定できます。
- 2：同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定できます。
- 3：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備考	
ウイルス抗体	《CF》	血液 1			CF	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	3 5		
		血清 0.3	01	冷						
		髄液 0.4	02	冷						
	単純ヘルペス (HSV)	IgG《EIA》	血液 1			EIA	陰性(-) EIA価 血清 2.0 未満 髄液 0.20 未満 頁下-1参照:「HSV抗体IgG(EIA)」髄液基準値	200 免疫 ^{2,3}		3 5
			血清 0.3	01	冷					
			髄液 0.3	02	冷					
	IgM《EIA》	血液 1			NT	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	10 15		
		血清 0.3	01	冷						
	1型《NT》	血液 各1			NT	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	10 15		
		血清 各0.3	01	冷						
2型《NT》	血液 各1			NT	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	10 15			
	血清 各0.3	01	冷							
水痘・帯状ヘルペス (VZV)	《CF》	血液 1			CF	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	3 5		
		血清 0.3	01	冷						
		髄液 0.4	02	冷						
IgG《EIA》	血液 各1			EIA	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	10 15			
	血清 0.3	01	冷							
IgM《EIA》	血液 各1			EIA	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	10 15			
	血清 0.3	01	冷							

「ウイルス抗体 (HI, CF, NT, FAT) 検査の留意点」(78頁-1)をご参照ください。

- ・補体結合試験 (CF) : 溶血血清では検査不能の場合もあります。
 - ・中和試験 (NT) : 所要日数は一応の目安です (多少遅れる場合もあります) にご了承ください。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合があります にご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
 - ・EIA法・その他法 : 最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。
- [ご参考] 「ウイルス抗体検査について」(77頁-1)を掲載しています。

- 1 : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
- 2 : 同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定できます。
- 3 : 同一ウイルスについて「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて実施した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

1 「HSV抗体IgG (EIA)」髄液基準値

判定	IgG 測定値	
	髄液	
陰性 (-)	EIA価	0.20 未満
判定保留 (±)	EIA価	0.20~0.39
陽性 (+)	EIA価	0.40以上

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備考
2574	サイトメガロ (CMV)	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01	冷	CF	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	3 5	
2571	IgG《CLIA》	血液 各1 血清 各0.3	01	冷	CLIA	AU/mL 陰性(-) 6.0未滿	200 免疫 ²³	2 3	基準判定保留 設定なし 陽性6.0以上
2570	IgM《CLIA》	髄液 各0.4	02	冷		陰性(-) (S/CO) 0.85未滿	79 免疫 ²³		
2581	IgG《FAT》	血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01	冷	FAT	血清 10倍 髄液 原液	200 免疫 ²³	3 4	機体 ¹ 血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4mLです。
2580	IgM《FAT》		02	冷			79 免疫 ¹		
2583	IgA《FAT》								
2579	IgG《FAT》	血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01	冷	FAT	血清 10倍 髄液 原液	200 免疫 ²³	3 4	機体 ¹ 血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4mLです。
2584	IgA《FAT》		02	冷			79 免疫 ¹		
2582	EBV EBNA	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01	冷	FAT	血清 10倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	3 4	機体 ¹ 血清EBV抗体価検査 (FAT法)を複数項目(2~6項目)依頼する場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4mLです。
2526	エンテロ 71型《NT》	血液 1 血清 0.3 または 髄液 0.4	01	冷	NT	血清 8倍 髄液 原液	—	11 16	
2503	A群2型《NT》	血液 各1 血清 各0.3 または 髄液 各0.4	01	冷	NT	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	9 15	
2504	A群3型《NT》								
2505	A群4型《NT》								
2506	A群5型《NT》								
2507	A群6型《NT》								

「ウイルス抗体(HI, CF, NT, FAT)検査の留意点」(78頁-1)をご参照ください。

- ・補体結合試験(CF): 溶血血清では検査不能の場合もあります。
 - ・中和試験(NT): 所要日数は一応の目安です(多少遅れる場合もあります)のでご了承ください。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
 - ・EIA法・その他法: 最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。
- [ご参考]「ウイルス抗体検査について」(77頁-1)を掲載しています。

- ¹: 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
- ²: 同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定できます。

- ³: 同一ウイルスについて「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて実施した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

ウイルス

ウイルス抗体

項目コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要日数	備考
2508	A群7型《NT》	血液 1			NT	血清 8倍 髄液 原液		11 16	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					
	A群9型《CF》	血液 1			CF	血清 4倍 髄液 原液		3 5	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					
	A群9型《NT》	血液 各1			NT	血清 8倍 髄液 原液		11 16	
		血清 各0.3	01	冷					
		髄液 各0.4	02	冷					
	A群16型《NT》	血液 各1			NT	血清 8倍 髄液 原液		10 15	
血清 各0.3		01	冷						
髄液 各0.4		02	冷						
2514	B群1型《CF》	血液 1			CF	血清 4倍 髄液 原液		3 5	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					
2513	B群1型《NT》	血液 1			NT	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫	11 16	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					
2516	B群2型《CF》	血液 1			CF	血清 4倍 髄液 原液		3 5	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					
2515	B群2型《NT》	血液 1			NT	血清 8倍 髄液 原液		11 16	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					
2518	B群3型《CF》	血液 1			CF	血清 4倍 髄液 原液		3 5	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					
2517	B群3型《NT》	血液 1			NT	血清 8倍 髄液 原液		11 16	
		血清 0.3	01	冷					
		髄液 0.4	02	冷					

ウイルス抗体

コクサッキー

ウイルス

「ウイルス抗体(HI, CF, NT, FAT)検査の留意点」(78頁-1)をご参照ください。

- ・補体結合試験(CF)：溶血血清では検査不能の場合もあります。
 - ・中和試験(NT)：所要日数は一応の目安です(多少遅れる場合もあります)のでご了承ください。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
 - ・EIA法・その他法：最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。
- [ご参考]「ウイルス抗体検査について」(77頁-1)を掲載しています。

①：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備考				
ウイルス抗体	コクサッキー	2520	B群4型《CF》	血液	1			3 ~ 5					
				血清	0.3	01	冷			CF	血清 髄液	4 倍 原液	
		または											
		髄液	0.4	02	冷								
		2519	B群4型《NT》	血液	1			8 倍 原液		11 ~ 16			
				血清	0.3	01	冷				NT	血清 髄液	
または													
髄液	0.4	02	冷										
2522	B群5型《CF》	血液	1			4 倍 原液	3 ~ 5						
		血清	0.3	01	冷			CF	血清 髄液				
または													
髄液	0.4	02	冷										
2521	B群5型《NT》	血液	1			8 倍 原液	11 ~ 16						
		血清	0.3	01	冷			NT	血清 髄液				
または													
髄液	0.4	02	冷										
2524	B群6型《CF》	血液	1			4 倍 原液	3 ~ 5						
		血清	0.3	01	冷			CF	血清 髄液				
または													
髄液	0.4	02	冷										
2523	B群6型《NT》	血液	1			8 倍 原液	11 ~ 16						
		血清	0.3	01	冷			NT	血清 髄液				
または													
髄液	0.4	02	冷										
エコー	1型《NT》	血液	1			8 倍 原液	79 免疫	11 ~ 16					
		血清	0.3	01	冷				NT	血清 髄液			
		または											
		髄液	0.4	02	冷								
		2481	3型《HI》	血液	1								3 ~ 5
				血清	0.3						01	冷	
または													
髄液	0.4	02	冷										
2482	4型《NT》	血液	各1			8 倍 原液	11 ~ 16						
		血清	各0.3	01	冷			NT	血清 髄液				
または													
髄液	各0.4	02	冷										
2484	6型《NT》	血液	各1			8 倍 原液	11 ~ 16						
		血清	各0.3	01	冷			NT	血清 髄液				
または													
髄液	各0.4	02	冷										
2486	7型《HI》	血液	1			3 ~ 5							
		血清	0.3	01	冷		HI	血清 髄液					
または													
髄液	0.4	02	冷										

「ウイルス抗体 (HI, CF, NT, FAT) 検査の留意点」(78頁-1)をご参照ください。

- ・補体結合試験 (CF) : 溶血血清では検査不能の場合もあります。
- ・中和試験 (NT) : 所要日数は一応の目安です (多少遅れる場合もありますのでご了承ください)。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
- ・EIA法・その他法 : 最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。

【ご参考】「ウイルス抗体検査について」(77頁-1)を掲載しています。

1 : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備考
2485	7型《NT》	血液 各1 ↓ 血清 各0.3	01	冷	NT			11 16	
2487	9型《NT》	または 髄液 各0.4	02	冷					
2489	11型《HI》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	HI			3 5	
		または 髄液 0.4	02	冷					
2488	11型《NT》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	NT			11 16	
		または 髄液 0.4	02	冷					
2491	12型《HI》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	HI	血清 髄液 8 倍 原液	79 免疫	3 5	
		または 髄液 0.4	02	冷					
2492	13型《NT》								
2493	14型《NT》								
2494	16型《NT》	血液 各1 ↓							
2499	22型《NT》 (パレコウイルス1型)	血清 各0.3 ↓ 髄液 各0.4	01	冷	NT			11 16	
2501	25型《NT》								
2502	30型《NT》								
2533	《HI》	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷	HI	血清 髄液 10 倍 10 倍	79	6 9	髄抗体価40倍以上の検体は、 2ME処理した上でその測定結 果も併せてご報告します。
		または 髄液 1	02	冷					
2534	《CF》	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	CF	血清 髄液 4 倍 原液	免疫	3 5	
		または 髄液 0.4	02	冷					

ウイルス抗体

ウイルス

「ウイルス抗体 (HI, CF, NT, FAT) 検査の留意点」(78頁-1)をご参照ください。

- ・補体結合試験 (CF) : 溶血血清では検査不能の場合もあります。
- ・中和試験 (NT) : 所要日数は一応の目安です (多少遅れる場合もあります) にご了承ください。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合があります にご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
- ・EIA法・その他法 : 最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。

[ご参考] 「ウイルス抗体検査について」(77頁-1)を掲載しています。

- 1 : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量(mL) ↓ 提出量(mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備考
2552	《HI》	血液 1 血清 0.3 — または — 髄液 0.4	01	冷	HI	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	3 4	
11793	風疹 IgG《CLIA》	血液 1 血清 0.3	01	冷	CLIA	IU/mL 陰性(-) 5.0未満	200	2 3	基準判定保留5.0~9.9 IU/mL 陽性10.0 IU/mL以上
2549	IgG《EIA》	血液 各1			EIA	陰性(-) EIA価 2.0未満	免疫 ^{2,3}	3 5	基準判定保留2.0~3.9 陽性4.0以上
2548	IgM《EIA》	血清 各0.3	01	冷		陰性(-) index 0.80未満			基準判定保留0.80~1.20 陽性1.21以上
1450	風疹 《LA》	血液 3	01	常	LTI (ラテックス免疫比濁法)	IU/mL 10未満	79 免疫 ¹	1	
3775	インフルエンザ 《HI》	血液 2 血清 0.4 — または — 髄液 0.9	01	冷	HI	血清 10倍 髄液 原液	79+79 免疫 ¹	3 5	項目 インフルエンザA型およびB 型の流行ワクチン株について、 一括で検査を実施します。 項目 *1
2466	A型《CF》	血液 各1			CF	血清 4倍 髄液 原液	各79 免疫 ¹	3 5	
2468	B型《CF》	血清 各0.3 — または — 髄液 各0.4	01	冷					
2470	パラインフルエンザ 1型(HA-2)《HI》	血液 各1			HI	血清 10倍 髄液 原液	各79 免疫 ¹	3 5	
2471	2型(CA)《HI》	血清 各0.3	01	冷					
2472	3型(HA-1)《HI》	— または — 髄液 各0.4	02	冷					
2473	RS 《CF》	血液 1 血清 0.3 — または — 髄液 0.4	01	冷	CF	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	3 5	
2545	麻疹 《NT》	血液 1 血清 0.3 — または — 髄液 0.4	01	冷	NT	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	10 15	
2542	IgG《EIA》	血液 各1			EIA	陰性(-) EIA価 2.0未満	200 免疫 ^{2,3}	3 5	基準判定保留2.0~3.9 陽性4.0以上
2541	IgM《EIA》	血清 各0.3	01	冷		陰性(-) index 0.80未満			基準判定保留0.80~1.20 陽性1.21以上

「ウイルス抗体(HI, CF, NT, FAT)検査の留意点」(78頁-1)をご参照ください。

- ・補体結合試験(CF)：溶血血清では検査不能の場合もあります。
- ・中和試験(NT)：所要日数は一応の目安です(多少遅れる場合もありますのでご了承ください)。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
- ・EIA法・その他法：最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。

【ご参考】「ウイルス抗体検査について」(77頁-1)を掲載しています。

* 1：2023年11月現在の測定株は次のとおりです。

- ・A型：A/ビクトリア/4897/2022 (H1N1)、A/ダーウィン/9/2021 (H3N2)
- ・B型：B/プーケット/3073/2013 (山形系統)、B/オーストリア/1359417/2021 (ビクトリア系統)

2：同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定できます。

3：同一ウイルスについて「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて実施した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

1：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備考	
2538	《HI》	血液 各1 血清 各0.3	01	冷	HI	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ¹	3 ~ 5	基準判定保留2.0~3.9 陽性4.0以上	
2540	《CF》	髄液 各0.4 または	02	冷	CF					
2536	IgG《EIA》	血液 各1			EIA	陰性(-) EIA価 2.0 未満	200			
2535	IgM《EIA》	血清 各0.3	01	冷		陰性(-) index 0.80 未満	免疫 ^{2,3}			基準判定保留0.80~1.20 陽性1.21 以上

ウイルス抗体

「ウイルス抗体 (HI, CF, NT, FAT) 検査の留意点」(78頁-1) をご参照ください。
 ・補体結合試験 (CF) : 溶血血清では検査不能の場合もあります。
 ・中和試験 (NT) : 所要日数は一応の目安です (多少遅れる場合もあります) ですのでご了承ください。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますのでご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定ください。
 ・EIA法・その他法 : 最低希釈倍率は基準値と読み替えてください。
 [ご参考] 「ウイルス抗体検査について」(77頁-1) を掲載しています。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2692	IgG-HA抗体	血液 各1	01	冷	CLIA	陰性(-) (S/CO) 1.00 未満	146	2 ~ 3	基準判定保留0.80~1.20 陽性1.21 以上
2693	IgM-HA抗体	血清 各0.3				陰性(-) (S/CO) 0.80 未満	免疫 ⁴		
1440	HBs抗原	血液 各3	01	常	CLIA	陰性(-)	29	1	透 報告 * 1
1442						IU/mL	88	1	透 報告測定法の限界上、陰性判定であっても陽性を完全に否定するものではありません。 報告 * 1
3424	高感度HBs抗原	血液 5 血清 1.2	指定容器	冷	CLEIA	IU/mL 陰性(-) 0.005 未満	88	3 ~ 5	透 検体必ず専用検体としてご提出ください。 検体採血後、直ちに採血管を転倒混和してください (フィブリンの析出により偽陽性や偽高値となる可能性があるため)。 検体 * 2,3 容器 * 4 報告 * 5
1441	HBs抗体	血液 各3	01	常	CLIA	陰性(-)	32	1	透
1443						mIU/mL	88	1	透 報告WHOの勧告ではB型肝炎ウイルス感染防御能を持つHBs抗体濃度は10.0mIU/mL以上とされています。

- * 1 : B型肝炎ウイルス (HBV) 感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HBc抗体測定など、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断ください。
- * 2 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- * 3 : 血漿 (容器番号98) でも検査可。
- * 4 : 凍結する場合は、ウイルス遺伝子検査用容器 (血清用) (容器番号97) をご使用ください。
- * 5 : 検査結果が陽性の場合、他の検査結果などと併せて、総合的なご判断をお願いします。
- 1 : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
- 2 : 同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定できます。
- 3 : 同一ウイルスについて「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて実施した場合は、いずれか一方のみ算定できます。
- 4 : 「HA抗体」、「IgM-HA抗体」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。
- 5 : 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療前に「HBs抗原」、「HBs抗体」、「HBc抗体」を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できません。

ウイルス

肝炎ウイルス関連検査

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2680	HBe抗原	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	CLIA	陰性 (-) (S/CO) 1.00 未満	98 免疫	2 3	
2681	HBe抗体	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	冷	CLIA	陰性 (-) 抑制率 50.0 未満	98 免疫	2 3	
2682	HbC抗体	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	PHA	陰性 (-) 64 未満 (最低希釈倍率)	130 免疫	3 5	
2683	HbC抗体	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	冷	CLIA	陰性 (-) (S/CO) 1.00 未満	112 免疫	2 3	
2685	IgM-HbC抗体	血液 1 ↓ 血清 0.3	01	冷	CLIA	陰性 (-) (S/CO) 1.00 未満	146 免疫	2 3	
25563	B型肝炎ウイルスコア関連抗原 (HBcrAg)	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	凍 -20℃以下	CLEIA	3.0 未満	252 免疫	3 6	
3186	HBV-DNA定量 《TaqManPCR法》	単独検体 開栓 血液 5 ↓ 血清 2.1	指定容器	凍 -20℃以下	ロシュ・ リアルタイムPCR法	Log IU/mL 定量結果 1.0 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル 検出せず	256 微生物	3 4	機体 78頁-3参照：血清を用いた 遺伝子増幅検査の留意点 機体 血漿 (容器番号98) でも検査 可。 参考 80頁-1参照：TaqManPCR 法による遺伝子増幅検査の結果 の考え方 機体 * 1,2
3798	輸血等確認 HBV-DNA定量 《TaqManPCR法》	単独検体 開栓 血液 5 ↓ 血清 2.1	指定容器	凍 -20℃以下	ロシュ・ リアルタイムPCR法	Log IU/mL 定量結果 1.0 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル 検出せず	256 微生物	3 4	機体 78頁-3参照：血清を用いた 遺伝子増幅検査の留意点 機体 血漿 (容器番号98) でも検査 可。 参考 80頁-1参照：TaqManPCR 法による遺伝子増幅検査の結果 の考え方 項目 * 3 機体 * 1,2
3333	HBVジェノタイプ判定 《EIA》	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	凍	EIA		340 免疫	3 9	報告 HBs抗原量が少なく型判定が 不能な場合は、判定保留とご報 告します。 報告 * 4,5
1470	HCV抗体	血液 3	01	常	CLIA	陰性 (-) 1.00 未満	102 免疫	1	手透 項目 67頁-1参照：緊急肝炎ウイル ス検査判定フロー

肝炎ウイルス関連検査

ウイルス

- * 1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください (同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
- * 2 : コタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- * 3 : ・すでに血中HBV-DNAの存在が確認されている患者の依頼は避けてください。もしくは、[3186] HBV-DNA定量をご依頼ください。本検査は、輸血後感染の有無判定を目的とするため、使用分析装置の動作機構に起因する検体間のコタミネーションリスクを極力回避するよう設定しています。
・本検査で増幅反応シグナルが“検出”であった場合は、該当検体を全件再検査します。
・再検査の結果、増幅反応シグナルが“検出”で確定した場合は、営業担当者を通じて速やかにご連絡しますので、検査結果の適否の判断をお願いします。
・検査結果に疑義がある場合は、再採血による再検査にご協力ください。
- * 4 : 抗原量が十分に存在する場合でも、重複感染や抗体の非特異反応の問題により、判定保留となる場合があります。

- * 5 : HBVジェノタイプがE~Hの場合は、判定結果がC、Dもしくは判定保留となります。
- 1 : 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療前に「HBs抗原」、 「HBs抗体」、 「HbC抗体」を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できます。
- 2 : 「HbC抗体」、 「IgM-HbC抗体」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。
- 3 : HBV感染の診断の補助および治療効果の判定の目的で測定した場合に1月に1回に限り算定できます。
「HBcrAg」と「HBV-DNA定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定できます。
- 4 : B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、測定した場合は、当該治療中および治療終了後1年以内に限り、月1回を限度に算定できます。
- 5 : B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2694	HCV抗体-Ⅲ	血液 2 血清 0.5	01	冷	LPIA	陰性 (-) (C.O.I) 1.0 未満	102 免疫	2 3	手透 項目スクリーニング検査としてご利用ください。 【1】C型肝炎ウイルス (HCV) 感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HCV-RNA測定など、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断ください。
2699	HCV群別 (グルーピング)	血液 1 血清 0.3	01	冷	CLEIA		215 免疫	2 3	
1474	HCV抗原	血液 3	01	常	CLIA	陰性 (-) 3.0 未満	102 免疫	1	【3】本検査が“定量下限未満”でも、直ちにウイルスの存在は否定できません。
3183	HCV-RNA定量 《TaqManPCR法》	単独検体 開栓 血液 5 血清 2.1	指定容器	凍 -20℃以下	ロシュ・リアルタイムRT-PCR法	Log IU/mL 定量結果 1.2 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル 検出せず	412 微生物	3 4	【2】検体78頁-3参照：血清を用いた遺伝子増幅検査の留意点 【3】参考80頁-1参照：TaqManPCR法による遺伝子増幅検査の結果の考え方 検体 * 1,2,3
3766	HCVサブタイプ系統解析	単独検体 開栓 血液 2 血清 0.5	指定容器	凍 -20℃以下	RT-PCR法/ ダイレクトシーケンス法	型別判定 (1a, 1b, 1c, 1d, 2a, 2b, 2c, 3a, 3b, 4, 5a, 6a)	—	5 10	【5】検体78頁-3参照：血清を用いた遺伝子増幅検査の留意点 項目 * 4 検体 * 1,2,3 報告 * 5
26404	HCV薬剤耐性変異解析 (NS5A)	単独検体 開栓 血液 2 血清 0.5	指定容器	凍 -20℃以下	RT-PCR法/ ダイレクトシーケンス法		—		【7】日数測定は月1回(不定期)です。 項目 * 6 検体 * 1,2,3,7
3341	IgA-HEV抗体	血液 1 血清 0.3	01 02	凍	EIA	陰性 (-)	210 免疫	3 9	

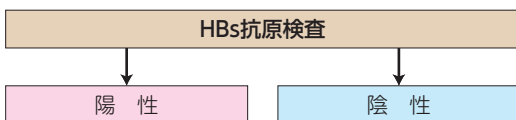
肝炎ウイルス関連検査

ウイルス

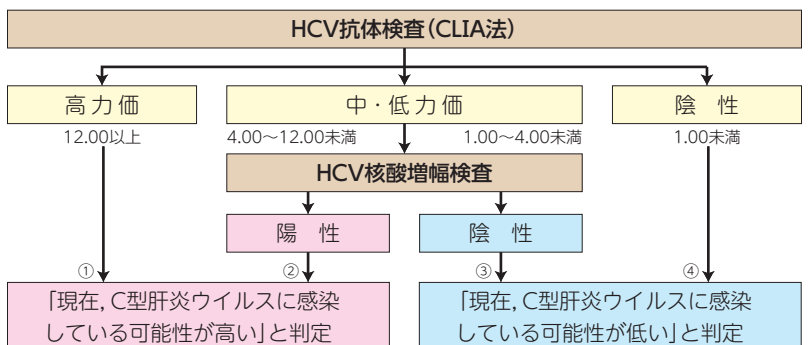
- * 1：必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
 - * 2：「HCV-RNA関連検査」のご依頼の際は、他項目とは別に(RNA検査用の)専用検体としてご提出ください。
 - * 3：コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
 - * 4：Simmondsらの分類に基づく型別判定を実施します。報告書上のアルファベットは、大文字で表記されます。
 - * 5：ウイルスRNAが微量(検出限界未満)の場合は、「検出せず」としてご報告することがあります。また、まれにウイルスの変異あるいは検出可能な12の型以外のためにより「検出せず」とご報告する場合があります。
 - * 6：L31、Q54およびY93それぞれにおいて検出したアミノ酸をご報告します。Q54単独変異(L31、Y93の変異を伴わない)では、耐性に関与しないことが報告されています(C型肝炎治療ガイドライン第6.2版より)。
 - * 7：検査に必要なウイルス量が十分(3.0 Log IU/mL以上)存在し、ウイルスの遺伝子型(Genotype)が1b型であることを確認の上、検体をご提出ください。
- 【1】C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。
 - 【2】急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択および治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できます。
 - 【3】保険請求の際は、「HCVコア蛋白」とご記入ください。

1 緊急肝炎ウイルス検査判定フロー

【B型肝炎ウイルス検査】



【C型肝炎ウイルス検査】



■HCV抗体検査

高力価 12.00以上 中力価 4.00~12.00未満 低力価 1.00~4.00未満
 ※当センター測定機器による検査法の力価となります。

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
1252	HIV抗原・抗体 《スクリーニング》	血液 5	01	常	CLIA	S/CO 陰性 (-) 1.00 未満	127 免疫 1,2	1	
12324	HIV-1/2抗体確認検査	単独検体 開栓 血液 2 ↓ 血清 0.6	指定容器 62	冷	イムノクロマトグラフィー法	陰性 (-)	660 免疫 3	3 6	項目頁下-1参照: 「HIV抗原・抗体」検査の留意点 項目頁下-2参照: イムノクロマトグラフィー法によるHIV-1抗体とHIV-2抗体の判定基準 検体 * 1,2 容器 * 3
3182	HIV-1 RNA定量 《TaqManPCR法》	単独検体 開栓 血液 8 ↓ EDTA血漿 2.1	指定容器 80	冷 凍結 凍結	ロシュ・リアルタイムRT-PCR法	コピー/mL 定量結果 2.0×10 ¹ 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル 検出せず	520 微生物 4	3 4	参考80頁-1参照: TaqManPCR法による遺伝子増幅検査の結果の考え方 検体 * 1,4,5
05452	HIV-ジェノタイプ 薬剤耐性検査	曜日指定 単独検体 開栓 血液 5 ↓ 血清 2 または EDTA加血液 5	指定容器 97	凍 -20℃ 以下	nested RT-PCR法/ ダイレクトシーケンス法		6000 微生物 5	7 12	項目80頁-2参照: 「HIV-ジェノタイプ薬剤耐性検査」の留意点 項目受付曜日: 材料がEDTA加血液の場合は月～金曜日(休日とその前日は受付不可) 検体 * 1,4

- * 1 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- * 2 : 提出検体量は、スクリーニング検査 (CLIA法) および抗体確認検査 (イムノクロマトグラフィー法) の両方を行った場合の必要量です。
- * 3 : 凍結する場合は、ウイルス遺伝子検査用容器 (血清用) (容器番号97) をご使用ください。
- * 4 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください (同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
- * 5 : ・必ず専用採血管にて採血し、1,200×g±400×g、20分間遠心分離を行い、冷蔵でご提出ください。
・血清は検査不可。
・患者名にはイニシャルまたはID番号をご使用ください。
- 1 : 診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者および診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対してHIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず所定点数を算定できます。
ア 新生児出血症 (新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等) 等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者。
イ 肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者。
ウ 食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐下血があった者。

- エ 大量に出血するような手術を受けた者 (出産時の大量出血も含む)。
なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい感染症が認められる場合、既往がある場合または疑われる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できます。
- 2 : 輸血 (自己血輸血を除く) を算定した患者または血漿成分製剤の輸注を行った患者に対して、一連として行われた輸血または輸注の最終日から起算して概ね2カ月後に測定が行われた場合はHIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず1回に限り算定できます。他の保険医療機関において輸血料の算定または血漿成分製剤の輸注を行った場合も同様です。いずれの場合も、診療報酬明細書の摘要欄に輸血または輸注が行われた最終日を記載してください。
- 3 : 「HIV1抗原・抗体 (スクリーニング)」によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として測定した場合に算定できます。
- 4 : HIV感染者の経過観察に用いた場合、または「HIV抗原・抗体スクリーニング」が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定できます。「HIV-1 RNA定量」と「HIV-1/2抗体確認検査」を併せて実施した場合は、それぞれを算定できます。
- 5 : 抗HIV治療の選択および再選択の目的で行った場合に、3月に1回を限度として算定できます。

1 「HIV抗原・抗体」検査の留意点

【検体の取り扱い, および依頼方法】

- 必ず指定容器 (容器番号62, 97) で採血後、遠心分離を行い、そのまま冷蔵保存でご提出ください。
- 同一検体で他項目との重複依頼は避けてください (単独検体)。
- 患者名にはイニシャルまたはID番号をご使用ください。
- スクリーニング検査 (CLIA法) で「陽性」を呈した場合は、原則としてイムノクロマトグラフィー法によるHIV-1/2抗体確認検査を実施します。

2 イムノクロマトグラフィー法によるHIV-1抗体とHIV-2抗体の判定基準

判定結果	測定結果
陽性	p31, gp160, p24, gp41のうち、gp160またはgp41のいずれかを含む2本以上のバンドが認められる。
陰性	p31, gp160, p24, gp41のいずれも認められない。
判定保留	上記、陽性および陰性でない場合。

HIV-2抗体の判定基準

判定結果	測定結果
陽性	gp36, gp140の両バンドが認められる。
陰性	gp36, gp140のいずれも認められない。
判定保留	上記、陽性および陰性でない場合。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) <small>(遠心)</small> 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
レトロウイルス	2624	血液 2 血清 0.5	01	冷	CLIA	陰性 (-) (S/CO) 1.00 未満	159 免疫	2 3	項目抗HTLV- I 抗体およびII 抗体の検出が可能です (型別の報告はできません)。 結果検査結果が陽性の場合には、「確認試験」の実施を推奨します。
	2626	血液 2 血清 0.6	01	冷	ラインプロット法(LIA)	陰性 (-)	425 免疫	3 9	基準頁下-1参照: 「HTLV- I 抗体《確認試験》(ラインプロット法)」判定基準
	27112	曜日指定 単独検体 開栓 EDTA加血液 7	89	冷	リアルタイムPCR法	検出せず	450 微生物	5 16	検体採血後、速やかに検体をご提出ください(原則として採血後24時間以内の検体を用います)。 項目 * 1 検体 * 2,3
ウイルス抗原	2612	塗抹標本	指定容器 56	凍 -20℃ 以下	FAT	1型 陰性 (-) 2型 陰性 (-)	180 免疫	3 5	手 検体78頁-2参照: 「単純ヘルペスウイルス特異抗原」検査の留意点 容器 * 4
	2616	曜日指定 サイトメガロウイルス抗原 《アンチジェネミア法》	EDTA加血液 5	14 冷 凍結	間接酵素抗体法 (アンチジェネミア法)	判定 陽性細胞数 スライド1 陽性細胞数 スライド2	(-) 0個 0個	356 免疫	2 3

* 1 : 受付曜日 : 月～金曜日 (休日とその前日は受付不可)

* 2 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。

* 3 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください (同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。

* 4 : 専用容器 (無蛍光スライド) はあらかじめご依頼ください。塗抹の際は、スライドガラスの裏表を確認の上、必ず「表」面に塗抹願います。また、氏名などの記入には鉛筆をご使用ください。

* 5 : 受付曜日 : 月～金曜日 (休日は受付不可)

1 : 「HTLV- I 抗体スクリーニング」で陽性が確認された症例について、確定診断の目的で行われた場合に算定できます。

2 : 「HTLV- I 抗体 (確認試験)」によって判定保留となった妊婦、移植者 (生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植または生体部分小腸

移植の場合に限る。) または臓器等提供者 (生体部分肺移植、生体部分肝移植、生体腎移植または生体部分小腸移植の場合に限る。) を対象として測定した場合にのみ算定できます。本検査を実施した場合は、HTLV- I 抗体 (ウエスタンブロット法およびラインプロット法) の判定保留を確認した年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

3 : ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できます。

4 : 臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者またはHIV感染者または高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合は、検査が必要であった理由について診療報酬明細書の摘要欄への記載が必要です。

1 「HTLV- I 抗体《確認試験》(ラインプロット法)」判定基準

ラインが認められない		陰性
ラインが1本認められる (≧±)	gag p19かgag p24か env gp46のいずれかが認められる	保留
	env gp21が認められる	
ラインが2本認められる (≧±)	env gp21が認められない	陽性
	env gp21が認められる	
ラインが3本以上認められる (≧±)		

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
2592	パルボウイルスB19 核酸同定	単独検体 開栓 血液 2 ↓ 血清 0.4	指定容器	凍 -20℃ 以下	リアルタイムPCR法	検出せず	—	2 ~ 8	検体78頁-3参照：血清を用いた 遺伝子増幅検査の留意点 検体*1,2
25483	HPV型別	LBC用採取液 (ThinPrep) 2 — または — ぬぐい液 61	指定容器	冷	PCR-rSSO法		—	5 ~ 10	項目6,11,16,18,26,31,33,35, 39,42,44,45,51,52,53,54, 55,56,58,59,61,62,66,68, 70,71,73,82,84,90および CP6108型のHPV(31種)を検 出します。 検体1 79頁-1参照：LBC検体提 出の留意点 検体1 *3 検体2 *4 報告 *5
	HPV-DNA同定 [中~高リスク型] 《ハイブリッドキャプチャー法》	ぬぐい液 61	指定容器	冷	ハイブリッドキャプチャー法	陰性(-) index 1.00 未満	347 微生物 1	2 ~ 3	項目HPVとして、16,18,31,33, 35,39,45,51,52,56,58,59お よび68型の“中~高リスク型” HPVを検出します(型別判定は できません)。
2623	HPV-DNA同定 [低リスク型] 《ハイブリッドキャプチャー法》	ぬぐい液 61	指定容器	冷	ハイブリッドキャプチャー法	陰性(-) index 1.00 未満	—	2 ~ 8	項目6,11,42,43および44型の “低リスク型”HPVを検出しま す(型別判定はできません)。
3364	HPV-DNA 簡易ジェノタイプ判定 《TaqManPCR法》	LBC用採取液 (ThinPrep) 2 — または — LBC用採取液 (SurePath) 2	指定容器	冷	ロシュ・ リアルタイムPCR法	検出せず	347 微生物 1	3 ~ 4	検体79頁-1参照：LBC検体提出 の留意点 項目*6 依頼*7 検体*3
3572	HPV 簡易ジェノタイプ判定 (9種判別)	LBC用採取液 0.5	指定容器	冷	リアルタイムPCR法	検出せず	—	—	項目6種の遺伝子型の型別判定と 3種の遺伝子グループのグルー プ単位での検出有無をご報告し ます。 検体79頁-2参照：「HPV簡易 ジェノタイプ判定(9種判別)」検 体の留意点 項目*8

- ウイルス学検査
- * 1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
 - * 2 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
 - * 3 : コンタミネーション防止のため、先に必要量を分注いただく方法を推奨します。
 - * 4 : ぬぐい液は、必ずHPV型別の専用検体としてご提出ください。
 - * 5 : 高リスク型が検出された場合は、検出された型と「高リスク型」である旨をご報告します。低リスク型とその他の型が検出された場合は、検出された型のみご報告します。
 - * 6 : HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定《TaqManPCR法》
 - ・ 型別判定が可能なもの：16型、18型
 - ・ 66型を含む12種類の高リスク型HPV (31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,66,68型)については、いずれか、または全ての型に感染している場合に陽性となります。どの型に感染しているかは判別できません。
 - * 7 : 依頼書に液状細胞診採取容器の商品名をご記入ください。
 - * 8 : HPV簡易ジェノタイプ判定(9種判別)

- ・ 型別判定が可能なもの：16型、18型、31型、45型、51型、52型
- ・ グループ判定を行うもの*：33と58型、35と39と68型、56と59と66型
 - * いずれか、または全ての型に感染している場合に陽性となります。グループ内のどの型に感染しているかは判別できません。
- 1 : 予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類がASC-US (意義不明異型扁平上皮)と判定された患者または過去に子宮頸部円錐切除もしくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できません。過去に子宮頸部円錐切除またはレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時にHPV検査を実施した場合は算定できません。算定に当たっては、厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等への届出が必要です。「HPV核酸検出」と「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」を併せて実施した場合は主たるもの1つに限り算定できます。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
3250	HPVジェノタイプ判定	LBC用採取液 (ThinPrep) 3 — または — LBC用採取液 (SurePath) 3	指定容器 81 指定容器 82	冷	PCR-rSSO法		2000 微生物	3 ~ 6	項目 16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59および68型の“中～高リスク型”HPV(13種)を検出します。 検体 79頁-1 参照：LBC検体提出の留意点 検体 * 1
04804	単純ヘルペスウイルス (HSV)	DNA定量	単独検体 開栓 EDTA加血液 2 — または — 血液 ↓ 血清 0.4 — または — 髄液 0.4	14 97 55	冷 凍 凍	リアルタイムPCR法	—	2 ~ 4	項目 * 2 検体 * 3,4,5 検体1 * 6 報告 * 7
07484		DNA定量 (リン酸)	単独検体 開栓 EDTA加血液 5	14	冷		コピー/μg	3 ~ 5	報告DNAが規定量回収できない場合は、換算値にて結果をご報告する場合があります。 項目 * 2 検体 * 3,4,5 報告 * 7,8
04811	水痘・帯状ヘルペスウイルス (VZV)	DNA定量	単独検体 開栓 EDTA加血液 2 — または — 血液 ↓ 血清 0.4 — または — 髄液 0.4	14 97 55	冷 凍 凍	リアルタイムPCR法	—	2 ~ 4	項目 * 2 検体 * 3,4,5 検体1 * 6 報告 * 7
07506		DNA定量 (リン酸)	単独検体 開栓 EDTA加血液 5	14	冷		コピー/μg	3 ~ 5	報告DNAが規定量回収できない場合は、換算値にて結果をご報告する場合があります。 項目 * 2 検体 * 3,4,5 報告 * 7,8

ウイルス核酸

ウイルス

- * 1 : コンタミネーション防止のため、先に必要量を分注いただく方法を推奨します。
- * 2 : 受付曜日：材料がEDTA加血液の場合は月～金曜日(休日とその前日は受付不可)
- * 3 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
- * 4 : 採血後、速やかに検体をご提出ください(原則として採血後24時間以内の検体を用います)。
- * 5 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- * 6 : EDTA加血液は血漿成分を対象として測定しています。
- * 7 : リアルタイムPCR法による検査において定量値をべき乗表示する場合の報告書上の記載は、例示のとおりです。

- (例) 5.0×10^2 コピー → 50×10^1 * 1 コピー
- * 8 : 検体中の1 μg DNA当たりのウイルスコピー数として表示。
- 1 : 予め行われた組織診断の結果、CIN1またはCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的としハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定できます。
算定に当たっては、厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等への届出が必要です。
算定に当たっては、予め行われた組織診断の実施日および組織診断の結果、CIN1またはCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。
同一患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日も診療報酬明細書の摘要欄に併せて記載する必要があります。

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
27299	尿中CMV核酸同定 (新生児尿)	単独検体 尿 0.2	指定容器	凍 -20℃ 以下	等温核酸増幅法	検出せず	801 微生物	3 ~ 9	依頼 生年月日を明記してください。 検体 * 1
07504	曜日指定 サイトメガロウイルス (CMV) DNA定量 (リンパ球)	単独検体 開栓 EDTA加血液 5	開栓	14 冷	リアルタイムPCR法	コピー/μg 10未満 (定量下限)	—	3 ~ 5	報告DNAが規定量回収できない 場合は、換算値にて結果をご報 告する場合があります。 項目 * 2 検体 * 3,4,5 報告 * 6,7
3823	サイトメガロウイルス (CMV)核酸定量 《TaqManPCR法》	単独検体 開栓 血液 各5	開栓	指定容器	ロシュ・ リアルタイムPCR法	Log IU/mL 定量結果 1.5 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル 検出せず	450 微生物	2 ~ 3	検体専用採血管で採血後、遠心分 離を行い、そのまま凍結してご 提出ください。 検体 * 3,5
12354	サイトメガロウイルス (CMV)核酸定量 (IU/mL) 《TaqManPCR法》	EDTA血漿 各1.5	指定容器	凍 -20℃ 以下	リアルタイムPCR法	IU/mL 定量結果 34.5 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル 検出せず	—	2 ~ 3	
新 13311	EBウイルス (EBV)核酸定量 《TaqManPCR法》	単独検体 開栓 血液 4 ↓ EDTA血漿 1.2	開栓	指定容器 80 冷	ロシュ・ リアルタイムPCR法	Log IU/mL 定量結果 1.5 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル 検出せず	310 微生物	2 ~ 3	検体専用採血管で採血後、遠心分 離を行い、そのまま冷蔵してご 提出ください。 検体 * 3,5
07497	曜日指定 EBウイルス (EBV) DNA定量 (リンパ球)	単独検体 開栓 EDTA加血液 5	開栓	14 冷	リアルタイムPCR法	コピー/μg 10未満 (定量下限)	—	3 ~ 5	報告DNAが規定量回収できない 場合は、換算値にて結果をご報 告する場合があります。 項目 * 2 検体 * 3,4,5 報告 * 6,7

- * 1 : 生後3週間以内の新生児尿を採取してください。反応阻害因子の影響をできる限り避けるため、採取の際は、便の混入に注意して行ってください。必ず専用検体としてご提出ください。
- * 2 : 受付曜日：材料がEDTA加血液の場合は月～金曜日(休日とその前日は受付不可)
- * 3 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
- * 4 : 採血後、速やかに検体をご提出ください(原則として採血後24時間以内の検体を用います)。
- * 5 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- * 6 : 検体中の1μg DNA当たりのウイルスコピー数として表示。
- * 7 : リアルタイムPCR法による検査において定量値をべき乗表示する場合の報告書上の記載は、例示のとおりです。
(例) 5.0×10^2 コピー → $50 \times 10^* 1$ コピー
- ① : 先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、尿を検体として測定した場合に、1回に限り算定できます。
先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、「CMV抗体《CF法》」もしくは「CMV抗体IgG,IgM」を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。
- ② : 以下のいずれかに該当する場合に測定した場合に算定できます。
ア 臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者、HIV感染者または高度細胞性免疫不全の患者に対して、サイトメガロウイルス感染症の診断または治療効果判定を目的として行った場合。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、本検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。
イ 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。
- ③ : 以下のいずれかに該当する患者に対して、リアルタイムPCR法により実施した場合に算定できます。
ア 臓器移植後の患者については、移植後3月以内の場合は1週に1回、移植後1年以内の場合は1月に1回に限り算定できます。ただ

し、移植後1年以内にEBウイルス核酸定量の測定を行い、核酸量の高値が認められた患者については、移植後1年以上経過した場合も、3月に1回に限り算定できます。イ 造血幹細胞移植後の患者であつて、HLA型不一致の移植が行われた患者または移植に伴い抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、移植後3月以内の場合は1週に1回、移植後1年以内の場合は1月に1回に限り算定できます。ウ 臓器移植後の急性拒絶反応または造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病に対して抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、抗胸腺細胞グロブリンの投与開始日から起算して2月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定できます。エ 移植後リンパ増殖性疾患を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助または診断された後の経過観察を目的として実施する場合に算定できます。ただし、経過観察を目的とする場合は、当該疾患と診断された日から起算して1月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定できます。オ 悪性リンパ腫または白血病の患者に対して、EBウイルス陽性の確認または確認された後の経過観察を目的として実施する場合に算定できます。ただし、経過観察を目的とする場合は、悪性リンパ腫または白血病と診断された日から1年以内限り、1月に1回に限り算定できます。カ 再生不良性貧血の患者であつて、抗胸腺細胞グロブリンが投与された患者については、抗胸腺細胞グロブリンの投与開始日から起算して2月以内の場合は1週に1回、6月以内の場合は1月に1回に限り算定できます。キ 慢性活動性EBウイルス感染症を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助または診断された後の経過観察を目的として実施された場合は、1月に1回に限り算定できます。ク 上咽頭癌を疑う患者に対して、当該疾患の診断の補助または診断された後の治療効果判定を目的として実施した場合に、それぞれ1回に限り算定できます。ただし、「D012」感染症免疫学的検査の「11」ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)または「44」のグロブリンクラス別ウイルス抗体価におけるEBウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。

項目コード	検査項目	採取量 (mL) <small>(遠心)</small> 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
04814	ヒトヘルペスウイルス 6型 (HHV6)	DNA定量	単独検体 <input type="checkbox"/> 開栓	指定容器	リアルタイムPCR法	100未満 (定量下限)	—	2 ~ 4	項目 * 1 検体 * 2,3,4 検体1 * 5 報告 * 6
			EDTA加血液 2	14 冷					
			または 血液 2	指定容器					
			血清 0.4	97 凍 -20℃以下					
			または 髄液 0.4	55 凍 -20℃以下					
07507		DNA定量 (リン/球)	単独検体 <input type="checkbox"/> 開栓	指定容器		10未満 (定量下限)	—	3 ~ 5	報告DNAが規定量回収できない 場合は、換算値にて結果をご報 告する場合があります。 項目 * 1 検体 * 2,3,4 報告 * 6,7
			EDTA加血液 5	14 冷					
04816	ヒトヘルペスウイルス 7型 (HHV7)	DNA定量	単独検体 <input type="checkbox"/> 開栓	指定容器	リアルタイムPCR法	100未満 (定量下限)	—	2 ~ 4	項目 * 1 検体 * 2,3,4 検体1 * 5 報告 * 6
			EDTA加血液 2	14 冷					
			または 血液 2	指定容器					
			血清 0.4	97 凍 -20℃以下					
			または 髄液 0.4	55 凍 -20℃以下					
07513		DNA定量 (リン/球)	単独検体 <input type="checkbox"/> 開栓	指定容器		10未満 (定量下限)	—	3 ~ 5	報告DNAが規定量回収できない 場合は、換算値にて結果をご報 告する場合があります。 項目 * 1 検体 * 2,3,4 報告 * 6,7
			EDTA加血液 5	14 冷					
04857	ヒトヘルペスウイルス 8型 (HHV8)	DNA定量	単独検体 <input type="checkbox"/> 開栓	指定容器	リアルタイムPCR法	100未満 (定量下限)	—	2 ~ 4	項目 * 1 検体 * 2,3,4 検体1 * 5 報告 * 6
			EDTA加血液 2	14 冷					
			または 血液 2	指定容器					
			血清 0.4	97 凍 -20℃以下					
			または 髄液 0.4	55 凍 -20℃以下					
07515		DNA定量 (リン/球)	単独検体 <input type="checkbox"/> 開栓	指定容器		10未満 (定量下限)	—	3 ~ 5	報告DNAが規定量回収できない 場合は、換算値にて結果をご報 告する場合があります。 項目 * 1 検体 * 2,3,4 報告 * 6,7
			EDTA加血液 5	14 冷					
06982	ノロウイルス (SRSV) -RNA同定		単独検体 <input type="checkbox"/> 開栓	指定容器	リアルタイム RT-PCR法	検出せず	—	2 ~ 4	検体 * 2,4
			糞便 1g (小指大)	55 凍 -20℃以下					

- * 1 : 受付曜日 : 材料がEDTA加血液の場合は月~金曜日 (休日とその前日は受付不可)
- * 2 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください (同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
- * 3 : 採血後、速やかに検体をご提出ください (原則として採血後24時間以内の検体を用います)。
- * 4 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- * 5 : EDTA加血液は血漿成分を対象として測定しています。
- * 6 : リアルタイムPCR法による検査において定量値をべき乗表示する場合の報告書上の記載は、例示のとおりです。
(例) 5.0×10^2 コピー $\rightarrow 50 \times 10^1 * 1$ コピー
- * 7 : 検体中の $1 \mu\text{g}$ DNA 当たりのウイルスコピー数として表示。

ウィルス核酸

ウィルス

ウイルス学検査

期コード	検査項目	採取量 (mL) ↓ (通心) 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
ウイルス核酸	12612 呼吸器病原体 マルチスクリーニング	単独検体 開栓 鼻咽頭ぬぐい液	指定容器 91	凍	マイクロアレイ法	検出せず	1350 微生物	2 3	項目頁下-1参照：「呼吸器病原体マルチスクリーニング」検出可能な病原体 検体必ず専用検体としてご提出ください。 検体冷蔵保管はしないでください。 検体SARS-CoV-2感染および感染を強く疑う患者検体は、カテゴリ-Bの三重梱包でご提出ください。三重梱包の資材は、貴施設にてご用意ください。 検体 * 1
	27317 感染性ぶどう膜炎 マルチスクリーニング	単独検体 開栓 眼内液 75μL	指定容器 87	凍	マルチプレックスリアルタイムPCR法	検出せず	—	2 4	項目頁下-2参照：「感染性ぶどう膜炎マルチスクリーニング」検出可能な病原体 検体必ず専用検体としてご提出ください。 検体眼内液:前房水または硝子体液 検体 * 1

* 1 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。

1 : COVID-19が疑われる患者であって、医学的に多項目の病原微生物の検索の必要性が高いと考えられる患者に対し、検査を行った場合に、一連の治療につき1回に限り算定できます。この場合において、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載

載する必要があります。また、採取した検体を、検体採取を行った保険医療機関以外の施設へ輸送し検査を委託により実施する場合は、国立感染症研究所が作成した「感染性物質の輸送規則に関するガイダンス2013-2014版」に記載されたカテゴリ-Bの感染性物質の規定に従う必要があります。

1 「呼吸器病原体マルチスクリーニング」検出可能な病原体

検出可能な病原体	
アデノウイルス	RSウイルス
SARS-CoV-2	ヒトライノウイルス / エンテロウイルス
コロナウイルス (229E, HKU1, NL63, OC43)	パラ百日咳菌
ヒトメタニューモウイルス	百日咳菌
インフルエンザウイルス (A, AH1, AH1-2009, AH3, B)	クラミジア・ニューモニエ
パラインフルエンザウイルス (PIV1, PIV2, PIV3, PIV4)	マイコプラズマ・ニューモニエ

コロナウイルス、インフルエンザウイルス、パラインフルエンザウイルスは検出された型をご報告します。なお、インフルエンザウイルスAH1-2009は、AH1としてご報告します。

2 「感染性ぶどう膜炎マルチスクリーニング」検出可能な病原体

検出可能な病原体
単純ヘルペスウイルス1型 (HSV1)
単純ヘルペスウイルス2型 (HSV2)
水痘・帯状ヘルペスウイルス (VZV)
EBウイルス (EBV)
サイトメガロウイルス (CMV)
ヒトヘルペスウイルス6型 (HHV6)
HTLV- I
梅毒
トキソプラズマ

項目コード	検査項目	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存方法	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
ウイルス核酸	12589 消化管マルチスクリーニング	単独検体 指定容器 開栓 糞便 1g	38	冷 凍 精	マイクロアレイ法	検出せず	—	2 3	項目下-1参照：「消化管マルチスクリーニング」検出可能な病原体 検体必ず専用検体としてご提出ください。 容器細菌検査用採便容器 (容器番号38) でご提出ください。 検体 *1
	27717 髄膜炎マルチスクリーニング	単独検体 開栓 指定容器 髄液 0.9	55	冷 凍 精	マイクロアレイ法	検出せず	1700 微生物	2 3	項目下-2参照：「髄膜炎マルチスクリーニング」検出可能な病原体 検体 *1,2

- * 1 : コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
- * 2 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください (同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。
- 1 : 関連学会が定めるガイドラインに基づき、問診、身体所見または他の検査所見から髄膜炎または脳炎が強く疑われる患者に対して、脳脊髄液中の病原体の核酸検出を目的として行った場合に、一連の治

療につき1回に限り算定できます。なお、髄膜炎または脳炎を疑う臨床症状または検査所見および医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載する必要があります。
一連の治療期間において別に実施した本検査に含まれる「ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量) (1項目当たり) 検査」、「抗原定性検査」、「核酸定量検査」、「核酸検出検査」については算定できません。

1 「消化管マルチスクリーニング」検出可能な病原体

検出可能な病原体	
カンピロバクター	大腸菌 (<i>E.coli</i>) O157 ^{*2,3}
クロストリジオイデス・ディフィシル toxin A/B	腸管侵入性大腸菌 (EIEC)
プレジオモナス・シゲロイデス	クリプトスポリジウム
サルモネラ菌	サイクロスポラ
ビブリオ属	アメーバ赤痢
コレラ菌	ランブル鞭毛虫
エルシニア・エンテロコリチカ	アデノウイルス F 40/41
腸管凝集性大腸菌 (EAEC)	アストロウイルス
腸管病原性大腸菌 (EPEC) ^{*1}	ノロウイルス G I / G II
毒素原性大腸菌 (ETEC) <i>lt/st</i>	ロタウイルス A
腸管出血性大腸菌 (志賀毒素産生大腸菌: STEC) <i>stx1/stx2</i>	サポウイルス

- *1 STECが「陽性」と判定された場合、EPECは「省略」でご報告します。
- *2 STECが同時検出された場合にのみ、大腸菌 (*E.coli*) O157 は「陽性」または「検出せず」でご報告します。
- *3 STECが「検出せず」の場合、大腸菌 (*E.coli*) O157 は「省略」でご報告します。

2 「髄膜炎マルチスクリーニング」検出可能な病原体

検出可能な病原体		
大腸菌 (<i>E.coli</i>) K1	肺炎球菌	ヒトヘルペスウイルス6型 (HHV6)
インフルエンザ菌	サイトメガロウイルス (CMV)	パレコウイルス
リステリア菌	エンテロウイルス	水痘・帯状ヘルペスウイルス (VZV)
髄膜炎菌	単純ヘルペスウイルス1型 (HSV1)	クリプトコッカス
B群レンサ球菌 (GBS)	単純ヘルペスウイルス2型 (HSV2)	

ウイルス学検査

期コード	検査項目	主要検体	保存方法	同定可能な型	実施料 判断料	所要 日数	備考
ウイルス分 離・同定	07390	ウイルス分離	日数測定は月1回(不定期)です。 参考頁下-1参照：分離可能なウイルス				
	07391	ウイルス同定					

1 分離可能なウイルス

JLAC10 分析物コード	分離可能ウイルス	主要検体	保存条件	同定可能な型	実施料 判断料	備考
5F194	サイトメガロ (CMV)	咽頭ぬぐい液 尿	冷蔵 *2		—	主要検体の内訳 □：主として用いられる検体 ■：必要に応じて用いられる検体 検査方法 組織培養 : HeLa(ヒト子宮頸癌細胞) Hep-2(ヒト喉頭癌細胞) HEL(ヒト胎児肺細胞) MDCK(イヌ腎細胞) Vero(ミドリザル腎細胞) RD18S(ヒト横紋筋腫細胞) B95a(マーマセットリンパ球由来細胞) A549(ヒト肺癌細胞) LLC-MK2(アカゲザル腎細胞) 同定方法 蛍光抗体法, 中和試験などで行います。 水疱液の採取に際しては、あらかじめ滅菌生理食塩水にて皮膚を洗浄してください。(アルコール消毒は不可)。
5F193	水痘・帯状ヘルペス	水疱				
5F190	単純ヘルペス	咽頭ぬぐい液 水疱 陰部ぬぐい液	凍結 -70℃以下 *1	1, 2型		
5F150	アデノ	咽頭ぬぐい液 糞便 尿 結膜ぬぐい液		1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 37型		
5F399	インフルエンザ	咽頭ぬぐい液		A/H1, A/H3, B型		
5F420	パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液 喀痰		1, 2, 3, 4型		
	コクサッキーA群	髄液 咽頭ぬぐい液 糞便 結膜ぬぐい液		7, 9, 16, 24型		
	コクサッキーB群	髄液 咽頭ぬぐい液 糞便		1, 2, 3, 4, 5, 6型		
	エコー	髄液 咽頭ぬぐい液 糞便		1, 3, 4, 6, 7, 9, 11, 13, 14, 16, 22*, 25, 30型		
5F250	エンテロ	髄液 咽頭ぬぐい液 糞便		71型		
5F431	麻疹 *3	咽頭ぬぐい液				

* パレコウイルス1型

[ご注意]

検体は、発症後速やかに（一般的に4日以内）無菌的に採取・保存してください。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますので、ご注意ください。

①各種ぬぐい液および水疱：

滅菌済みのプラスチック製綿棒にて採取。ウイルス保存液入りバイアル瓶に綿棒を入れてよく攪拌後、綿棒を容器上部で折り、密栓してください。木製綿棒の使用は避けてください。

木製綿棒を使用した場合は、綿棒を抜いて密栓してください。

②糞便： 小指頭大の半分（0.5g）をウイルス保存液入りバイアル瓶に入れて密栓してください。

③髄液： 1mLをウイルス保存液入りバイアル瓶に入れて密栓してください。

④喀痰・尿： 1mLをウイルス保存液入りバイアル瓶に入れて密栓してください。

ウイルス保存液（ゲンタマイシン加0.5%BSA含有ブイオン）入りバイアル瓶は、弊社にて準備しますので、

営業担当者にお申し付けください（容器番号54）。

ウイルス分離検査・同定検査は、同時にご依頼ください。

ウイルスが分離された場合のみ、同定検査を実施します。

ウイルス「分離」および「同定」は、個別に検査料金を申し受けます。

（ウイルス分離検査が陰性の場合、同定検査の検査料金はかかりません。）

*1：凍結は-70℃以下とし、-20℃では保存しないでください。

*2：サイトメガロ、水痘・帯状ヘルペスは、凍結により活性が低下するため、冷蔵で保存してください。他のウイルスと同時に依頼される場合は、2本に分けて（1本冷蔵、1本凍結）提出してください。

*3：麻疹ウイルスの分離をご依頼される場合は、事前にご連絡ください。

1

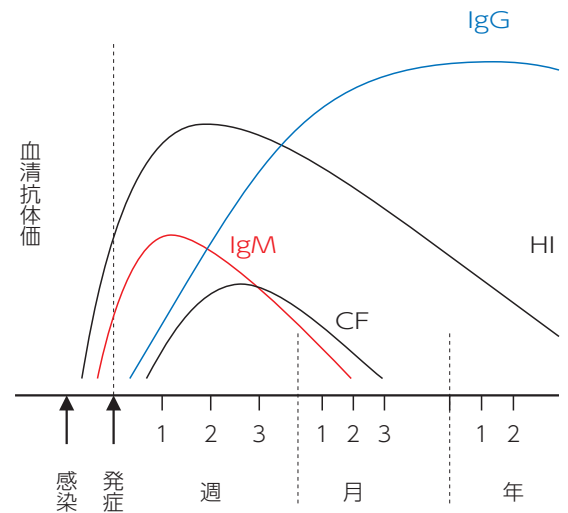
ウイルス抗体検査について

ウイルス抗体検査に関しては、ほとんどの人が抗体を保有しているものもあり、一律に「正常値」と表現することは適切ではない場合があります。抗体価は一般に感染の既往を表し、抗原系検査とは異なり現在感染状態にあると確定できない場合があります。検査結果が希釈倍率により報告される抗体検査は急性期と回復期（発症後2週間程度）に採取し

た検体（ペア血清）で、抗体価を比較して4倍以上の上昇が認められた場合に有意の感染があったと推定されます。また、単一血清で初感染か否かを診断するためにはIgM抗体を測定し、陽性的場合には感染後あまり時間が経過していないと推定されます。

【グロブリンクラス別抗体価測定の意義】

抗体	特徴
IgG	感染後IgMに少し遅れて出現し、長期にわたり検出される。胎盤通過性あり。
IgM	感染後早期に出現し、2～3カ月程度で消滅する。胎盤通過性なし。



抗体価推移の一例

【主な検査方法の特徴】

検査法	測定原理	特徴
HI (赤血球凝集抑制試験) Hemagglutination inhibition test	ウイルスが動物の赤血球を凝集する性質を利用し、抗体が存在した場合に赤血球凝集が抑制されることにより判定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・早期に抗体価が上昇する ・抗体が長期にわたり持続する ・型特異性がある
CF (補体結合反応) Complement fixation test	抗原抗体複合物が補体を活性化し、免疫グロブリンのFc部分に結合する性質を応用したもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・簡便である ・比較的早期に抗体価が上昇する ・型特異性に乏しい
NT (中和試験) Neutralization test	検体中に抗体が存在する場合、ウイルスを中和し細胞変性効果(CPE)が起こらないことを応用したもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス特異性および型特異性が高い ・検査に時間を要する
EIA (酵素抗体法) Enzyme Immunoassay	検体中に抗体が存在する場合、抗原と結合し、さらに酵素標識抗体を反応させることで基質が発色し、その吸光度により抗体価を判定するもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・グロブリンクラス別の測定が可能である ・IgM, IgG抗体を測定することにより初感染または感染既往の推定ができる

【目的別ウイルス抗体検査の適応例】

ウイルス名	自然感染	感染既往の有無	ワクチンによる受動免疫の有無
風疹(Rubella)	EIA法(IgM, IgG), CLIA法(IgG), HI法	EIA法(IgG), HI法	EIA法(IgG), HI法
麻疹(Measles, Rubeola)	EIA法(IgM, IgG), NT法	EIA法(IgG), NT法	EIA法(IgG), NT法
ムンプス(Mumps)	EIA法(IgM, IgG), HI法, CF法	EIA法(IgG), HI法	EIA法(IgG)
水痘・帯状(Varicella-Zoster)	EIA法(IgM, IgG), CF法	EIA法(IgG)	EIA法(IgG)
インフルエンザ(Influenza)	HI法, CF法	—————	HI法
EB(Epstein-Barr)	VCA-IgG, A, M, EA-DR-IgG, A, EBNA	VCA-IgG, EA-DR-IgG, EBNA	—————
パルボB19(Parvo-B19)	EIA法(IgM, IgG)	EIA法(IgG)	—————
A型肝炎ウイルス(HAV)	IgG-HA抗体, IgM-HA抗体	IgG-HA抗体	IgG-HA抗体
B型肝炎ウイルス(HBV)	HBs抗体, HBe抗体, HBc抗体, IgM-HBc抗体	HBs抗体, HBe抗体, HBc抗体	HBs抗体
C型肝炎ウイルス(HCV)	HCV抗体-II, HCV抗体-III	HCV抗体-II, HCV抗体-III	—————
E型肝炎ウイルス(HEV)	IgA-HEV抗体	—————	—————

上表はあくまで検査の選択の目安です。

一般に自然感染の判定は急性期、回復期のペア血清により4倍以上の抗体価の上昇が認められたときに有意と判定されます。(HI法, CF法, NT法)

一般にCF抗体は力価が低く持続期間も短いので、ワクチン接種による効果判定にはCF検査は適応とはなりません。

ウイルス学検査

1 ウイルス抗体(HI, CF, NT, FAT)検査の留意点

【提出検体量】

CF法による「ウイルス抗体価検査」において多項目を同時にご依頼の際は、下表の血清量および髄液量を目安としてご提出ください。

なお、検査項目によって多少異なる場合がありますので、ご注意ください。

項目数	提出検体量 (mL)	
	血清 (血液)	髄液
2 ~ 5 項目	0.6 (2.0)	1.0
6 ~ 10 項目	1.0 (3.0)	1.8
11 ~ 15 項目	1.5 (4.0)	2.5
16 ~ 20 項目	2.0 (5.0)	3.0

【検査結果の解釈】

急性期（発病初期）と回復期（発病2～3週間後）の血清を同時に測定し、抗体価が4倍以上の上昇を示した場合、血清学的に有意と見なします。したがって、急性期と回復期の血清をペアにしてご依頼いただくことをおすすめします。なお、ペア血清をご提出の際は、1依頼書で1検体とし、それぞれの依頼書には必ず採血日を記入してください。

【検査実施料の算定】

- 1) 同一ウイルスに対して複数の測定方法を行った場合でも、所定点数は1回分として算定されます。
- 2) 同一検体について複数のウイルス抗体価を測定した場合、検査実施料の算定は8項目が限度となります。

2 「単純ヘルペスウイルス特異抗原」検査の留意点

【検体の採取方法】

水疱の場合：小水疱、膿疱、痂皮

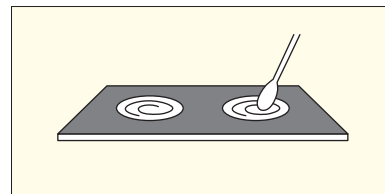
- 1) 針を挿入し、上部の皮あるいは痂皮を剥がしてください（図1）。
- 2) ピンセットで、剥がした皮を除去してください（図2）。
- 3) ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底面を綿棒で強く拭ってください（図3）。

水疱でない場合：基底細胞の採取

ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底面を綿棒で強く拭ってください（図3）。

【検体の塗抹方法】

- 1) スライドガラスの2つのウェルに内側から円を描くように、こすらず、軽く叩くように塗抹してください。
その際、綿棒に付着している検体全てが塗抹されるよう、綿棒を少しずつ回転させ、ウェルからはみ出さないように塗抹してください。



- 2) 風乾 操作中検体が剥がれ落ちる原因となりますので、完全に乾燥させてください。
ドライヤーの冷風で乾燥させることも可能です。
- 3) アセトン固定 検体の塗布してあるウェルにアセトンを滴下して固定し、蒸発させます。

《注意》

- ①早期の水疱病巣が検体として最適です。
- ②水疱内容液は検体として不適です。
- ③ウイルス感染細胞は病巣基底面にありますので、患者が痛いというくらい強く拭い、基底面の細胞を採取します。
- ④膿が出ている場合は、病巣基底面をかき乱さないように注意し、綿棒でまず膿を拭い去り、別の綿棒で検体を採取してください。

図1

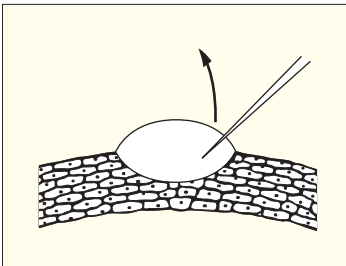


図2

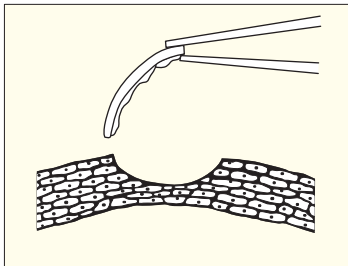
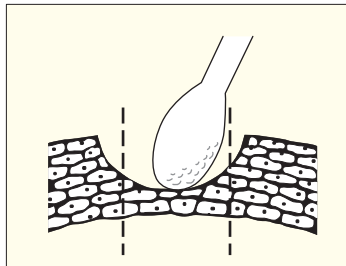


図3



3 血清を用いた遺伝子増幅(PCRなど)検査の留意点

【検体の取り扱い、および依頼方法】

1) 遺伝子増幅検査の検体採取・保存の際は、核酸分解酵素の影響および検体相互のコンタミネーションを防ぐため、以下の点にご注意ください。

- ①専用の真空採血管（分離剤入り、容器番号 62,97）を使用し、採血・ご提出ください。
- ②同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けてください（遺伝子検査専用検体）。
- ③上記指定容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、常温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離を行い、そのまま凍結してご提出ください。なお、凍結融解をしないでください。

※未分離凍結検体、溶血検体では抽出効率の低下、遺伝子増幅阻害などによるデータへの影響が考えられます。

2) 遺伝子増幅検査については、ヘパリンによる増幅反応の阻害があるため、透析患者などでは検出されないことが考えられますので、ご注意ください。

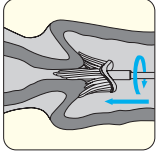
1 LBC検体提出の留意点

【注意事項】

- 穴の開いたキャップでの提出は避けてください。穴を開けた場合は、コンタミネーション防止のため新しいキャップを使用してください。
- ご提出の際は、バイアルにパラフィルムは巻かず、キャップがしっかりと閉まっていることをご確認ください。
パラフィルムを巻く行為は装置の正常動作を妨げるため、場合によっては検査不能になる恐れがあります。
- 婦人科 LBC は子宮頸がん検査としています。弊社では体部内膜の採取は想定していません。

【細胞採取方法：Cervex ブラシを用いた場合】

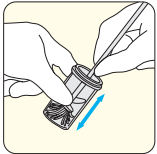
1) 採取



- ・子宮口に軽く当て**右に5回転**させて細胞を採取します。
注) 強く当てると出血する可能性があります。

2) 細胞回収

ThinPrep (容器番号 81)



- ・検体採取の際は、**できるだけ血液、粘液の混入を避けてください。**
- ・検体採取後、ブラシを直ちにバイアルの底に押し付けるように10回洗いください。最後にブラシを回転させて細胞を浮遊させてください。
- ・採取**ブラシ先端部分はバイアル内に入れないようにしてください。**
- ・ThinPrepについてはブラシは提出せず廃棄してください。

SurePath (容器番号 82)



- ・バイアル内部の広い開口部側の端に採取ブラシ先端部分を引っ掛けて柄を引き抜いてください。



- ・狭い (小さい) 開口部側にブラシは入れないでください。
- ・SurePathについてはブラシ (先端部分のみ) を入れた状態で提出してください。

2 「HPV簡易ジェノタイプ判定(9種判別)」検体の留意点

液状細胞診実施前に、コンタミネーションの影響に十分注意し、専用容器 (74番) に0.5mL分注してご提出ください。なお、使用できるLBCの種類は、SurePath®およびThinPrep®です。



1 TaqManPCR法による遺伝子増幅検査の結果の考え方

【HBV-DNA定量】

	結果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HBV増幅 反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	9.0以上	検出	HBVを検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.0~8.9	検出	HBVを検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.0未満	検出	HBVを検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.0未満	検出せず	HBVを検出しなかった

【HCV-RNA定量】

	結果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HCV増幅 反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	8.0以上	検出	HCVを検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.2~7.9	検出	HCVを検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.2未満	検出	HCVを検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.2未満	検出せず	HCVを検出しなかった

【HIV-1 RNA定量】

	結果		結果の考え方
	定量結果 (コピー/mL)	HIV増幅 反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	1.0×10^7 以上	検出	HIVを検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	$2.0 \times 10^1 \sim 9.9 \times 10^6$	検出	HIVを検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	2.0×10^1 未満	検出	HIVを検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	2.0×10^1 未満	検出せず	HIVを検出しなかった

測定結果が定量下限未満であっても増幅反応シグナルが“検出”の場合は、ウイルス核酸が“検出された”とご判断ください。

2 「HIV-ジェノタイプ薬剤耐性検査」の留意点

【検体の取り扱い、および依頼方法】

- 1) 同一検体で、HIV-ジェノタイプ薬剤耐性検査ならびにHIV-RNA定量検査以外の項目との重複依頼は避け、単独検体でご提出ください。
- 2) HIV-RNA定量検査と同一検体でご依頼の場合は、HIV-RNA定量検査の提出方法に従ってご提出ください。
- 3) 患者名にはイニシャルまたはID番号を使用し、「匿名化」をしてご提出ください。
- 4) 検体採取・保存の際は、核酸分解酵素の影響および検体相互のコンタミネーションを防ぎ、以下の点にご注意ください。
 - ① EDTA加血液または遺伝子増幅用専用容器（分離剤入り、容器番号 97）でご提出ください。
 - ② EDTA加血液の場合は、開栓せずに冷蔵（4℃）で保管し、ご提出ください。
 - ③ 血清の場合は、遺伝子増幅検査の留意点に準じてご提出ください。

【判定方法】

判定および耐性関連変異はThe French ANRS (National Agency for AIDS Research) OCT 2021.Ver.32に基づく国立感染症研究所の判定方法に準拠しています。

【判定】 R:Resistance (薬剤耐性), PR:Possible Resistance (軽度の薬剤耐性), S: Susceptible (薬剤感受性)

【判定可能薬剤】 AZT, 3TC/FTC, ABC, TDF/TAF, NVP, EFV, ETR, RPV, DOR, FPV, LPV, ATV, DRV QD, DRV QD, RAL, EVG, DTG BID, DTG QD, CAB, BIC